

まちなかお休みどころ「かつしか」の開設！

(市民交流の場、お休みどころでふれ合い)

取材日：平成22年（2010年）10月16日

【活動目的】

西船橋地区の実情（高齢者や身体の不自由な方、子連れの方には買い物が厳しい）を踏まえ、買い物の途中でもちょっと休める場所、交流の場所、誰でも気軽に立ち寄れる「お休みどころ」を西船橋商店街の中に設ける。代表の江口氏、中村氏が西船橋地区に暮らす高齢者や子ども達が、安心して生活できるまちづくりを目指し、市民大学校で学習したことを基本に活かし、西船橋地区で暮らして良かったと思えるまちづくりの実現。そのために、まず商店街にお休みどころ「かつしか」を設け、地域市民の交流の場を作る。海神、夏見など他のお休みどころも見学し、西船橋地区にふさわしい交流の場を提供することで活動を開始した。

【支援金事業】（支援対象経費総額 384,884 円 支援金確定額 200,000 円 支援率 51.96%）

西船橋駅前商店街の空店舗を活用して、市民が気楽に立ち寄り交流し合える場所お休みどころ「かつしか」を新規に設置する。支援金は本事業が新規設置であるためテーブルやイスなど初期投資に充当される。西船橋地区は高齢者、子育て世代が多いにもかかわらず気軽に交流できるところが今まで無かった。お休みどころ「かつしか」の設置により市民が交流の場として利用できるようになり、西船橋の市民によるまちづくりが前進している。

主な活動として、平成22年5月 まちの写真展。6月 かつしかの民話を聞こう。7月 革で小物づくり体験。8月 森の宝、木の実で作品をつくろう。9月 昆虫の写真展。10月 里の秋をみんなで歌おう。11月 毛糸でバックづくり体験。12月 松ぼっくりでクリスマスツリーづくり。平成23年1月 アフガニスタンの音楽を聴こう、シルクロードの旋律などがあり、話題には事欠かない。



お休みどころ「かつしか」



イベント「里の秋をみんなで歌おう」

【活動の現場から】

取材は10月16日（土）午後2時からJR西船橋駅北口より歩いて3分のお休みどころ「かつしか」で行われた。この日は船橋にゆかりのある斉藤信夫の童謡「里の秋」をみんなで歌うイベントがあり、約30人の老若男女がところ狭しと集まり、「里の秋」「赤とんぼ」など、懐かしい童謡を心行くまで熱唱していた。取材チームも童心にかえり年甲斐も無く大声で歌い、時間の経つのを忘れるほどだった。

平日は70～80歳代の利用が多く、イベントがあると20～30人が参加する。古い葛飾の写真を常時紹介していることで西船のまちの良さを知ることができた、長く住み続けたいという方も増えているという。

【支援金事業のもたらす効果】

一人暮らしの方がほぼ毎日訪れ、地域の古い話や戦争体験を話してくださったり、老人ホームにいる方が訪れ、ボランティアさんに手作りの袋を渡すのを楽しみにされたりするなど地域の皆さんの交流が進んでいる。独居老人はここに立ち寄ることで気兼ねなく交流できるので、引きこもりの予防になり、子育て世代は育児についての情報交換ができ育児ノイローゼなどの予防にもなる。またイベントに参加した子ども達は進んで挨拶するようになるなど、生き生きとした船橋のまちづくりの価値を社会に発信している。

【今後の事業活動】

地域の他の市民活動グループをはじめ、さまざまな人々がお休みどころ「かつしか」を通して出会い、交流し、楽しみ合う情報交換の場として活用していき、さらに商店会や地区社協との連携を進め、発展させる方向である。会員は現在募集していないが、ボランティア（現在10人）は口コミで参加している。とにかく始めてみて、やっているうちにアイデアも出てくると、豊富な経験を活かした継続的な事業展開を目指している。

【取材を終えて】

市民交流の場、お休みどころ「かつしか」。代表の江口氏、中村氏は船橋市民大学校ボランティア学科の卒業生である。西船橋のお休みどころの開設による市民交流が研究テーマあり、他のお休みどころを見学した上で、西船橋に合致したお休みどころを実際に開設したことは、素晴らしい取り組みである。お休みどころ「かつしか」が市民交流の場として地域の人たちとの関わりを深め、ますます発展することが期待される。

関わり先（連絡担当者） ふるさとまちづくりの会 代表 中村 恵子 TEL：080-3388-6968
